

トラベクトーム

: 此処が聞きたい。

2012年10月26日(金) 17:30~18:30 第6会場(国立京都国際会館 RoomB-2)

座長



新家 眞 先生

公立学校共済組合関東中央病院 病院長
東京大学名誉教授

Trabectome手術は特別の機器とViscoelastic materialの使用による一種の進化したTrabeculotomy(従来の ab externalに対してab internoである)であるが、手技が簡便であること、結 膜に全く侵襲を加える必要ないこと、白内障手術との併用が容易な事等、古典的なTrabeculotomy ab externalに比べて多くに利点を持っている。其の術式が本邦に導入されてから既に2年が過ぎ、本邦での臨床経験もかなり蓄積されてきたと考えられる。Trabectome手術の眼圧下降効果、症例別での効果の差、手技上のポイント、合併症等...に関してどれ位の情報が蓄積されて来ているのであろうか? そこで再びその開発と普及に当初よりかかわってこられたお二人、Baerveldt先生とMinckler先生をお招きし、Baerveldt先生には諸外国におけるTrabectome手術の実情と成績を、さらに相原先生に今まで日本のTrabectome研究会で蓄積してきた本邦での臨床成績を纏めてお話しいただくこととした。更に、今回の新しい試みとして、事前に募集した質問に対してMinckler先生にお答えいただく事により、締めくくりとする予定である。本イブニングセミナーにより、Trabectome手術に対する皆様の理解が一層深まれば幸いである。

演者



演題 1

『諸外国でのトラベクトームの実情』

George Baerveldt 先生

The Inventor of Trabectome® Ophthalmic Surgeon



演題 2

『日本におけるトラベクトームの臨床成績』

相原 一 先生

四谷しらと眼科副院長



演題 3

『トラベクトームの疑問に答えます』

Don Minckler 先生

Emeritus Professor of Ophthalmology and Glaucoma service
Director, Clinical Professor of Laboratory Medicine
(Ophthalmic Pathology) University of California, Irvine, USA

TRABECTOME®

taming surgical complications.

